

## 令和4年度 第2回土佐和紙振興対策推進会議 議事要旨

- 1 開催日時 令和4年9月15日(木) 10:00~11:30 (場所:いのホール)
- 2 出席者 出席名簿のとおり
- 3 議題 ①土佐和紙総合戦略におけるこれまでの取り組みの総括(案)について  
②次期土佐和紙総合戦略の全体イメージ案について  
→議題についてはいずれも委員の承認をいただいた。

### 4 議事要旨

#### 議題①土佐和紙総合戦略におけるこれまでの取り組みの総括(案)について

○事務局(県工業振興課)より「資料1」及び「資料2」をもとに説明を行った。

○事務局の説明に対する委員からの意見等は以下のとおり。

(高知大学 田中副委員長)

- ・今年の楮の状況は、かなり成長が良い。ヤケのあるなしは剥いてみないとわからないが、量的にはかなり期待ができそう。
- ・楮畑では、2010年前後までは猪による食害はなかったが、現在では、県内全域で猪の被害があり、地域によって鹿や猿の食害も受けている状況にある。
- ・作業工程の分業化に係る農福連携は、かなり可能性があると個人的には思っている。紙すき職人の中でも、これまでへぐり等の作業を頼んでいた方が亡くなったり、農作業が難しくなっていく中で、福祉作業所等とも連携して取り組んでいる。
- ・へぐりの作業は、基本的には歩合制になっている。例えば、黒皮を15キロぐらい渡すと、それが大体4分の1の量の白皮になって返ってきて、その量に合わせてお金を支払われるが、一生懸命やっても数百円ぐらいにしかならない。上手な人は1日3,000円ぐらい稼げるがそれでも安い。
- ・作業所では色々なやり方があるが、十分に使用できる質の白皮が納品されているので、今後、技術的な向上など色々な可能性があると考えている。
- ・出荷額等では全国トップクラスの愛媛県では、地元の原料を使って紙を漉いている方はほとんどいない。今年の夏にあちこち回ってきたが、原料は海外産を使っている、それでも手すき和紙としては儲かっている。
- ・土佐和紙でも海外産の原料が圧倒的に使われていると思うので、その辺りも含めて、地元の原料で作っている紙をどういうふうに認めていく、どう評価していくかということが大事になってくると思う。
- ・その辺りを考えた時に、ユネスコ登録も難しいことばかりだが、他県の状況を見ても、ユネスコ登録がすごく大きなインパクトになっている。大変な問題も含むが、大きく状況が変わった。

- ・例えば、原料の確保においても紙すき職人や役場合めて、産地へ頻りに足を運ぶようになり、栽培・加工などについても情報共有も進んだ、そのなかで他の和紙生産地との原料確保に係る競争が起こり、その動きが原料農家の動きの活発化に繋がった。
- ・これらを踏まえても、高知には施設、原料や紙すきの技術など、他県から見て羨ましがられるものがたくさんあるが上手く活用できていないため、そういった部分をどう上手く回していくかが必要だと考える。

(環境農業推進課 青木委員)

- ・楮生産を産業と捉えた場合、現在、産業として成り立たなくなっているのが現実である。
- ・先ほどの田中委員の話にもあったように、へぐり作業は歩合制となっている。賃金についても県が平成 28 年調査した時には、平均的に 300 円程度の金額であったと思う。
- ・現時点では最低賃金の 3 分の 1 程度になっていると思われるので、へぐりだけでなく、蒸しの工程から含め、職人に出荷できる状態にするための仕組みを、先ほどの農福連携など、委託作業の中でできる仕組みを、それぞれが考えていかないと成り立たないのではないかなと思う。
- ・高知県内の楮の生産面積は、昨年度から 1ha ほど減って 6.5ha 程度、生産者数も 4、5 名ほど減っている状況。また、大きな産地はいの町と本山町なので、農業振興部としては、いの町と本山町で、実際の楮が栽培されている圃場を確認しながらリスト化するなど、新たな場所に植えるのではなく、既存の農地を維持していく方法を楮生産者の皆様や市町村の皆様、紙すき職人の皆様と一緒にどういう形がいいのか考えていく必要がある。
- ・それぞれの家によってやり方も違うため、今後、現場段階で確認しながら取り組んでいくのが良いと思う。
- ・その中で、今後の方向性(案)にある苗の確保や、今後、新たに楮を植えるとしたらどの系統の楮を植えるといいのかなどの系統選抜は、できるだけ早く取り組む必要があると思うので、今の状況でできることご意見をいただきながら取り組んでいければと思う。

(高知大学 田中副委員長)

- ・例えば、ちり取りをほとんどしなくて済むということであれば、原料価格を上げることも考えていただけるかもしれないが、そのためにはまず、紙すき職人と農家が情報を共有し、お互いにとって良い方法を探ることができるかと思う。
- ・こういった情報共有は全ての紙すき職人ではないが、ここ 10 年ぐらいで少しずつ広がっていくので、この次にどうするのか考えていきたい。
- ・例えば、昔は 1 軒の紙すき職人が使う量を昔は 1、2 軒の農家で賄っていた。現在は農家の生産量も落ちているため、3、4 軒になるかもしれないが、そういった紙すき職人との関係性を見直していかないといけないと思う。この問題を問屋や行政に任せてもなかなか進まず、関係性が途切れているところもある。

⇒（環境農業推進課 青木委員）

- ・理想的には、土佐の楮が欲しい紙すき職人が農家と直接結びついて生産していく体制がとればいいが、原料商の方が間にいるため簡単にはいかない。
- ・いずれにしても、楮が欲しい紙すき職人から必要な量と単価の明確な提示がないと、ご高齢になっている生産者の皆様が継続的に楮を栽培する意欲に繋がらないのが現状であり、これをやればできるという話は無いため、原料生産については、農家さんの実態を確認しながらの話が一番ではないかと思う。
- ・農業委員会の方では、そういった農地と人を突合する作業をこの2年間でやっていくような法律ができたので、その取り組みの中で一体的に取り組めればいいと思う。

（歴史文化財課 中内委員）

- ・楮生産に関して文化財サイドでは、紙自体が文化財を守る材料、技術であることから、紙を漉く技術を支援すると同時に、近年では原料の確保をするための支援も行っている。
- ・本県においても文化庁の補助事業を活用し、吾北地区での楮栽培に3年ほど取り組んでいるが、現状は、生産者の高齢化や世帯人数の減少などにより生産が難しくなっており、今年も補助申請を取り下げるという事案も出てきている。
- ・本来は販売価格の改善が望ましいが、生産コストの部分で吾北地区でも活用していた文化庁の補助事業を活用すれば、楮農家への負担軽減が図られることにより、楮生産の継続に繋がるのではないかと考えている。

（中央会 松井委員）

- ・業界は違うが中央会では、ポリテクセンターやテクノ高知と連携して機械加工系の事業所に対するものづくり担い手育成事業として、製造業の従業員の加工技術の研修を10年以上やっている。
- ・予算は、以前は県工業振興課、現在は県経営支援課に計上していただいている。
- ・その一貫で機械加工だけでなく、例えば、酒造会社の従業員の技術を向上させる支援もできないかと中央会として考えている。
- ・中央会は様々な業界の支援機関であり、手すき和紙職人における人材育成の部分でも何かできることはないかと考えている。
- ・鍛冶屋創生塾は、鍛冶屋になりたいという問い合わせが香美市などにあったが、受け入れることができずに長い間懸念事項となっていた。元々、打刃物の事務局が香美市商工会にあり、そこにいた経営指導員が積極的に動き、国の補助金も活用しながら実現させた。
- ・資料2にもあったが、1社だけで受け入れるのはかなり負担が大きいと思う。それを組合が中心になって課題解決を図った好事例だと思う。
- ・こういった取り組みの情報を繋ぐ役割を中央会として担うことはできると思う。
- ・また、設備投資の内容が今後の方向性（案）にあったが、手すき和紙職人として新たに創

業するために必要となる設備投資への補助、支援になると思うが、現状、創業して間もない方に対して、設備投資への補助制度がおそらくないのではないかと。

- ・ 現在、設備投資に係る補助金は過熱しており、国の事業再構築補助金であったり、中央会が行っているものづくり補助金や、最近では高知市や南国市、香美市あたりにはあるかもしれないが、使い勝手が良い400万円ほどの補助金制度がある。
- ・ 補助金の交付にあたっては、事業計画作りに県外のコンサルもかなり入ってきている。中央会としても、私自身も計画を作ったり、商工会議所・商工会の指導員もかなりのレベルで事業計画を作っているが、県外で手数料を受け取り、支援をしているコンサル会社は補助金申請のフォーマットができていてなど過熱している状態。
- ・ 例えば、その高知市の補助金の中で、その制度を緩和するような形で土佐市、いの町がそれぞれで新しい目的として、手すき和紙を優先採択する、補助率を上げるなど、何かメリットが出る施策を市や町でも考えていただければ可能性としてできるのではないかと思う。
- ・ MBAのビジネス研修については、人材育成研修の中でこれはこれで良いと思う。
- ・ いずれにしても、求人ネットから問い合わせがあった際に、現状では個々の組合員で受け入れができないため、そこを解決するための具体策を官民一体で取り組むべきだと思う。

(手すき和紙協同組合 大原事務局長)

- ・ 意見は2点あり、1点は手すき和紙職人の後継者育成について、こちらは現在、県の補助金を活用し、県が中心となり自治体とも連携しながら取り組みを行っている。
- ・ 県の補助金は当初から比べると緩和されてきており、今は1対1ではなく、複数人での受け入れが可能な状態になっている。
- ・ また、今後の動きとして、現在、後継者育成の研修を希望する方がいるので、その方が研修を受けるということになれば、複数人での指導のもとでその方をサポートする動きを県と自治体の関係者の方と連携しながら行っている。
- ・ もう1点は用具保存では、用具保存会は、無形文化財の保持団体に入っているため、毎年、文化庁からの補助金を活用しながら後継者育成などの複数の事業を行っているが、用具保存会は全国組織になるため、本県の後継者育成だけに注力することは難しい。
- ・ 今は県歴史文化財課や文化庁にお世話になりながら体制も成り立っており、用具保存会としてはその2点を協力をいただきながら、官民一体で取り組んでいる。

(高知大学 田中副委員長)

- ・ 後継者育成の研修生の受け入れ先として、一番初めに思い浮かぶのが工芸村だが、既に職人の方が利用しており、新しい方のためにどうやって場所を構えるということが難しいところである。
- ・ 紙すき職人も自宅で作業ができないわけではないが、道具などが壊れており、それを修理するために多額の費用がかかるため工芸村に残っているなど、色々な事情があるが、残っている方には研修生への指導などもお願いするなど、色々なやり方も考えることができる

と思う。

- ・道具については、先月、県内の用具職人の方が亡くなられたため、その方の技術の継承は難しいが、持っていた道具や繋がりなどは引き継いでいかないと、とても大きな損失になると思う。

#### 議題②次期土佐和紙総合戦略の全体イメージ案について

○事務局（県工業振興課）より「資料3」及び「資料4」をもとに説明を行った。

○事務局の説明に対する委員からの意見等は以下のとおり。

（環境農業推進課 青木委員）

- ・原料生産に関しては、KPIの設定はそぐわないと考える。理由としては、産業として見たときに、楮生産は成り立たない現状があるためである。
- ・何らかの改善をしていくことは当然必要だと思うが、KPIを各基本方針ごとに一律で設定するというのは違和感を感じる。また、それを原料生産側に立って見たときに、設定の内容にもよるが、請け負いかねるものであると思う。

⇒（工業振興課 岡崎委員長）

- ・生産量を一律に上げていくという形でなくても良いと思う。例えば、ニーズに対しての充足率など、何をKPIに設定するかの議論は当然必要。
- ・別の分野では、ユネスコ関係など、KPIが計りにくいものも当然ある。
- ・全ての分野で設定するKPI数字でないといけないわけではない。

⇒（環境農業推進課 青木委員）

- ・製紙業という産業としては工業側の分野だと思うが、農業や林業側からは、必要な楮の量は全くわからない。そういう意味で、そこに向けた今の現状を考えると、充足率などの定量的に捉えたものは正直厳しいと考える。
- ・単価を見ても、一部では確かに高く売れている方法もあるが、それを一律に、今の楮生産者の皆様に対して提案することはできないと思う。そういう意味でKPIの設定はそぐわない。
- ・例えば、新たな取り組みを一つ行うなどは設定できるかもしれないが、生産量や生産面積、生産者数などでKPIを設定することは少し違うのではないか。

⇒（工業振興課 岡崎委員長）

- ・これから第2期の総合戦略に取り組んでいく訳だが、この第2期が終わる時に、戦略を継続、終了などの判断するためのツールとしてKPIを設定する必要があると思う。その中でこういったKPIが設定できるかぜひ一緒に検討していただきたい。

（高知大学 田中副委員長）

- ・商品開発・販売促進に注力することに賛成だが、紙すき職人の柱になる販路が必要だと思う。他の産地では、お酒のラベルを作っているところや、石州ではお祭りの中で和紙が使われるなど、それで食べている人たちもいる。例えば、県内全ての県及び市町村役場の職員が仮に1,000人いて、その方々が使う名刺を土佐和紙にした場合、年間1,000枚ぐらい使えば、100万枚必要になり、1枚10円だと1,000万円分の仕事になり、それを紙すき職人が10人ぐらいで漉くと1人あたり年間100万円の仕事になる。
- ・今のは例えだが、こうした紙すき職人にとって柱になる収入源を確保したうえで、それ以外の新しい取り組みができるような環境を作ることも大切だと思う。
- ・これはこの会議の中だけではなく、紙すき職人自体の努力も大きいところだが、まだまだできる可能性があるのではないかと思う。

⇒（岡崎委員長）

- ・名刺や賞状など色々な用途があると思う。工業振興課では土佐和紙を所管していることもあり、使えるところでは使おうという動きはあるが、コスト高になる面から全庁的に広げるうえでは課題がある。

（産業振興センター 川崎委員）

- ・この取り組みの中では、センターとしては、販路拡大や製品開発に関することなどのお手伝いをさせていただいている。
- ・センターの強みとしては、県外の見本市への出展や東京営業本部（東京、大阪、名古屋）の活動等で、県外のバイヤーとは一定のお付き合いがあり、例えばB to C向けの商品開発をする時にバイヤーの方をセンターの事業で専門家としてお招きし、色々とディスカッションしていく中で商品を開発していくお手伝いはできる。
- ・それとともに、販路を広げていく取り組みへのご協力はできるかと思うので、商品開発に関するアイデアの段階や改良、もしくは、こういう先で販売してみたいということがあれば、センターにお気軽にご相談いただきたい。また、プロジェクトチーム会でも積極的に関われたらと思っている。

（紙産業技術センター 刈谷委員）

- ・昨日の日経新聞の地方版に納経帳の話が載っていたが、実は、紙産業技術センターがお話しをいただいたのが3年前で、昨日、ようやく発表になったというぐらい時間がかかるもの。
- ・紙すき職人からご相談いただいて短期間でできることはあるが、その紙すき職人自体が大きい事業体ではないため、KPIを数字で設定することは難しいかと思う。

（高知県製紙工業会 濱田委員）

- ・KPIを設定することに私は大賛成。私は民間企業にもいたため、いつまでもできないことを引きずっていくことに違和感がある。できないことは切り離していき、可能性があること

ころに集中的に取り組んでいく。そういう方向性ということなので期待している。

⇒（環境農業推進課 青木委員）

- ・そういう意味で、再生産価格で生産ができていない楮生産をこの戦略の中で大々的に取り組んでいく必要はあるか。もちろんできることは取り組む必要はあるが。

⇒（高知県製紙工業会 濱田委員）

- ・私はないと思う。

（工業振興課 岡崎委員長）

- ・土佐市、いの町へのリクエストとして、今後の取り組みを考えていくなかで、地域おこし協力隊の制度も絡めて何か効果的なやり方がないか念頭に置いていただきたい。

⇒（土佐市）

- ・地域おこし協力隊の方は3年間という限られた期間の中で、移住した後の生活が成り立つ仕組みづくりが課題である。
- ・土佐市の事業者支援では手すき和紙だけでなく、全体の中小企業を含めた支援ができないか案として出てきているので、高知市を参考にしてみる。
- ・手すき和紙職人の後継者育成については、土佐市の事業者で、取り組んでいきたいという方がいるので、手すき和紙協同組合とも協力しながら取り組んでいきたい。

（工業振興課 岡崎委員長）

- ・設備投資ではスタートアップの方が既存の補助メニューでは設備投資の補助を受けづらいというご意見があった。
- ・1つは全ての企業向けの支援もあるが、今の人材育成の延長で何かプラスのメニューとして、例えば、県の後継者育成のための補助金があるが、研修後の次のスタートアップへの繋ぎの部分で隙間があれば、紙すき職人としての新規創業のための補助などは考える余地があるのではないかと感じた。

最後に、事務局より次回の土佐和紙振興対策推進会議の開催について案内し、令和4年度第2回土佐和紙振興対策推進会議を閉会した。